

2013年 12 月 No.11

自主防災の基本

防災だより

自助: 自らの[命・家族・資産]は自ら守る
共助: 自主防災は[B 自治会]が防災隊
近助: 防災は[近所の助け合い]が使命

「自助」に関する情報誌

発行者 B 地区茅ヶ崎自治会 自主防災隊

25年度 防災訓練について 「情報収集」「情報伝達」

25年度の防災訓練は、従来の訓練とは大きく変わりました。訓練のテーマは「**情報収集と情報伝達**」です。このテーマについて、訓練の目的・意義・やり方などについて、役員会事前会議及び役員会にて会を重ねてきました。

会議では、話がスムーズに進んだわけでは

今まで、防災訓練と言えば、消火器の訓練、炊きだし、起震車体験、煙道逃げ、天ぷら油消火、ロープワークなどやってきましたが、25年度は「情報収集」「情報伝達」を行いました。

ありません。防災に関して話を聞いたり、話合ったりした経験が少ないことから、理解できない状況の中で進めたために、話が戻ったり、横道にそれたりしました。

しかし、訓練の成果として「防災を話合った」こと、「被害を想定」したことなど有意義でした。その内容の要旨を報告します。

Q: テーマの「情報収集と情報伝達」とはどういう訓練ですか？

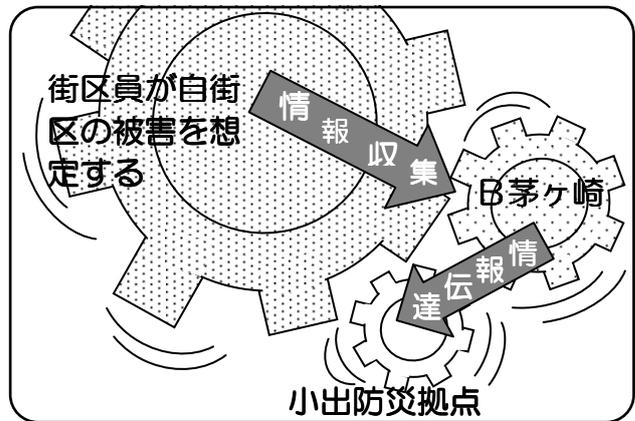
A: 「**情報収集**」は、B 茅ヶ崎の被害の情報を収集することです。

「**情報伝達**」は、収集した情報を防災拠点へ「伝達」することです。

Q: 訓練ではどうするのですか、

A: 訓練の日は被害の情報はありませんから、「**被害を想定**」します。家は、道路は、ライフラインは、など「被害想定」をします。

防災体制



訓練テーマ 本番・訓練	情報収集	情報伝達
地震発生時	街区員が、自街区の被害状況を収集し、自主防災隊がB 茅ヶ崎として集約する。	B 茅ヶ崎の被害状況を小出防災拠点へ伝達すると同時に支援・救援の要請をします。小出地区や他地区の被害状況を知ります。
防災訓練では	今回は、街区員が被害を想定し、防災部がB 茅ヶ崎として集約した。	被害情報を小出拠点へ行って、口頭で伝達し、同時に支援・救援の要請をします。そして小出地域の被害状況を知りました。

情報元 ; 茅ヶ崎市 自治連合会 防災部会 えのぼ (江の島・藤沢ポータルサイト)

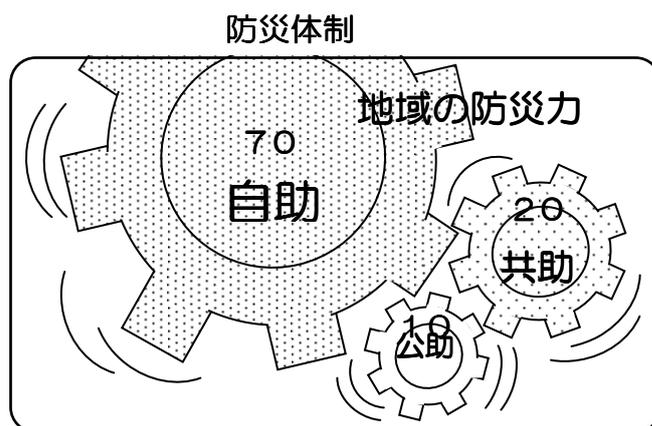
★本誌に関する 連絡・問い合わせ先★
 坂上 (B-24-20) Tel/Fax 53-1351
 qqyk5sq9k@ark.ocn.ne.jp

防災の基本的な考え方「自助」・「共助」・「公助」

Q：防災訓練について基本的な考え方は何ですか？

A： 防災訓練のお話の前に、まず防災の基本的な考え方について知っておく必要があります。それは、防災（減災）を確固たるものにする組織体制の考え方です。

- ・「自助」と言って、① 自らの命は自ら守る。
- ・「共助」と言って、② 地域で助け合う自治会
- ・「公助」と言って、③ 国・行政の支援・救援の大きく3つの枠組で組織を実現しています。



Q：もう少し、詳しく説明してください。

A： この中でもっとも大きく寄与するのが「自助」の70%です。次に「共助」の20%。最後に「公助」の10%。この比率は、命を守る領域の重み、言葉を変えれば責任の分担とも言えます。

「自助」「共助」を“地域の防災力”と呼んでいます。今回の「情報収集」「情報伝達」訓練は「公助」との組織連携する訓練と言えます。

「公助」は、平常時の防災意識高揚・防災（減災）の指導を行い、災害時は支援・救援することとなっています。しかし、TVなどで見る救援は発災後数日たっています。自らの命は自ら守るということは、3日～数日は救援・支援がないので自らが守ることになります。

Q：「被害の想定」はどのように考えるのでしょうか？

A： 被害を想定する訓練では、避難する状況を想定していること。確実に被害ができることを想定して6強以上としました。

避難所は震度5弱から開設します。

「被害の想定」は、各人の地震に対する体験、知見、感覚によって決めます。「被害の想定」は各人

によって変わります。また日によっても変わってきます。想定された被害は誰からも批判されません。批判することができる人もいません。

防災はすべて被害を想定することから始まります。

今回の防災訓練で得られた成果と評価

Q：今回、初めて実施した防災訓練では、どうだったですか？

A： このような訓練は初めてでしたので、小出自治会連合会 防災部へ出かけ、趣旨・目的・実施要領などを打ち合わせしてきました。

役員会及び事前打ち合わせは6回も重ねてきまし

た。

「防災訓練で話し合う」経験がなかったため話し合うこと自体が成果の一つと言えるでしょう。次につなげる課題が見えてきました。

Q：成果はどうでしたか？

A： 今回の防災訓練では、「被害の想定」を各街区員から提出して頂きました。新しい訓練課題に取り組んでいただいた成果でした。

しかし、見方を変えて、今後は一回の会議で周知徹底できることを目指せば、今後の課題は大き

いと思われれます。もっと防災意識を高めることはもちろんですが、防災以前のB 茅ヶ崎が置かれている状況（市境問題、防犯）などにも言及しておく必要性があります。